

1. 件名：「泊発電所3号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（148）」

2. 日時：令和4年12月7日（水）16時00分～17時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、鈴木安全審査専門職※、馬場係員、田島技術研究調査官

北海道電力株式会社：藪執行役員 他7名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年11月30日に受取済み>>

・泊発電所 基準地震動の策定について

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	規制庁タニです。
0:00:04	ヒアリングを始めたいと思います。今日の案件としては、泊発電所3号炉、基準地震動の策定ということで、資料の方は、
0:00:15	11月30日に提出いただいているものを使ってということになります。まず資料の方ですね、北海道電力の方から説明をお願いいたします。
0:00:27	はい。北海道電力の松村です。本日のヒアリングよろしくをお願いいたします。
0:00:33	10月21日の審査会合でいただきました、指摘事項に対する回答方針資料をまとめましたので、ご説明させていただきます。
0:00:44	説明はタカハシから説明時間は15分から20分程度を予定しておりますよろしくをお願いいたします。
0:00:53	はい。北海道電力の高橋です。それでは資料の方ご説明させていただきます。基準地震動の策定について前回審査会合でのご指摘事項に対するご回答を中心に資料の方をご説明させていただきます。
0:01:08	2ページをお願いいたします。
0:01:11	こちら前回審査会合でのご指摘事項と、それに対する回答方針をまとめております。前回会合においては二つのご指摘いただいております。
0:01:22	一つ目が断層モデルを用いた手法による、基準地震動の策定について、基準地震動S sワンとの関係を整理した上で、それぞれの検討用地震の地震動評価ケースから代表を選定できることについて、説明を行うこと。
0:01:38	とのご指摘をいただいております。それに対し今回資料において、S sワンとの関係を再度整理した上で、代表ケースの選定結果を選定理由とともに、お示しすることとしております。
0:01:50	二つ目としまして、一関東評価用地震動の鉛直方向の設定にあたって用いている数値等の根拠を明確にすることとのご指摘をいただいております。
0:02:03	それに対し、一関東評価用の地震動の鉛直方向の設定する際に参考とした文献を明示することといたしております。
0:02:14	それぞれの詳細についてですが、まずは一つ目のご指摘事項に関連しまして、断層モデルを用いた手法による基準地震動についての基本的な考え方、検討概要をご説明させていただきます。
0:02:27	6ページをお願いいたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:32	泊発電所における基準地震動策定にあたっての基本的な考え方をお示ししております。応答スペクトルに基づく手法による基準地震動については、前回会合より、基本的な考え方に変更はございません。
0:02:47	一方で、断層モデルを用いた手法による基準地震動、こちらにつきましては、基準地震動 S_s ワンとの関係を整理し、 S_s を超過するケースから、検討用地震の地震動の色、諸特性を踏まえた上で、
0:03:00	検討用地震ごとの代表ケースを基準地震動として設定することに変更しております。
0:03:07	また、
0:03:08	同様に、特定せず策定する地震動による基準地震動、こちらにつきましても、 S_s 案を超過するケース、こちらを基準地震動として設定することに変更してございます。7 ページをお願いいたします。
0:03:24	基本的な考え方を踏まえました、基準地震動設定のフローを示してございます。
0:03:30	先ほどご説明した通り、応答スペクトルを用いた手法による基準地震動、こちらについては変更はございませんが、断層モデルを用いた手法による基準地震動をにつきましては、
0:03:41	先ほどの基本的な考え方に基づきまして、検討用地震を上回るケースから、検討用地震の地震動の諸特性を踏まえた上で代表ケースを選定し、
0:03:52	結果として $S_s 2-1$ から $2-14$ までの基準地震動として設定してございます。
0:03:59	特定せず策定する地震動による基準地震動につきましては、 S_s 案を上回るすべてのケースを基準地震動として設定してございまして、 $S_s 3-1$ から $3-5$ として設定してございます。
0:04:12	結果としまして、 $S_s 1$ から $S_s 3-5$ まで、合計 20% の基準地震動として設定してございます。
0:04:21	前回会合から、変更 2 となりました断層モデルを用いた手法による基準地震動の設定について詳細をご説明させていただきます。
0:04:30	15 ページをお願いいたします。
0:04:35	こちらは断層モデルを用いた手法による地震動評価結果と、エスワンとの関係を整理してございます。
0:04:43	地震動評価結果のうち、基準地震動 S_s 湾を上回るケース、こちらにつきましては 39 ケースございますが、施設へ与える影響を考慮しまして、この 39 ケースから基準地震動を設定いたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:57	16 ページをお願いいたします。
0:05:01	基準地震動の設定にあたっては、検討用地震の地震動評価結果の特徴と、20 ページから 23 ページにお示ししておりますが、
0:05:12	それぞれの検討用地震で、時刻歴八景の形状や、継続時間が同様の傾向になっているということを踏まえまして、検討用地震ごとに、相対的に地震動レベルが大きい周期体、こちらに着目しまして、
0:05:27	その周期体で地震動レベルが大きいケースを代表ケースとして選定し、それらを基準地震動として設定いたします。
0:05:36	検討用地震の特徴につきましては、17 ページに応答スペクトル図を示してございますのでそちらも併せてご確認いただきたいのですが、
0:05:46	まず、尻別川断層、についてでございます。
0:05:50	尻別川断層につきましては、17 ページの上段の応答スペクトル図で赤線でお示ししてございますけれども、エスワンを鉛直方向の長周期側で超過してございまして、
0:06:04	相対的にも鉛直方向の長周期側の地震動レベルが大きくなっているということになってございます。
0:06:11	これらを踏まえまして、尻別川断層につきましては、1 秒から 5 秒の長周期側の地震動レベルに着目しまして代表ケースを選定いたします。
0:06:23	同様に、17 ページの応答スペクトル図の緑選定を示してございます。遠藤断層についてでございます。
0:06:32	こちら相対的に水平、鉛直方向の長周期側の地震のレベルが大きいということから、周期 1 秒から 5 秒の、
0:06:42	長周期側の地震動レベルに着目して代表ケースを選定いたします。
0:06:49	続いて、積丹半島北西沖の断層についてでございます。
0:06:53	こちら、17 ページ下段に、層厚ごとのオートスペクトル図をお示してございますが、赤線、緑線でお示ししました 0 度ケース、さらに 20 度ケース。
0:07:06	と、黄色線でお示してございます 40 度ケース、こちらで傾向が異なるということから、それぞれから代表ケースを選定することとしまして、
0:07:17	020 度ケースは、0.1 秒から 0.04 秒の短周期側に、
0:07:22	40 度ケースにつきましては、同じ短周期側に加えまして、周期 1 秒から 3 秒の長周期側、こちらにも着目し、大小代表ケースを選定いたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:34	ページ飛びまして 24 ページをお願いいたします。
0:07:42	ここから検討用地震ごとの代表ケースの選定結果をお示してごさいます。まずは、尻別川断層についてですが、
0:07:52	先ほどご説明した通り、S s 湾を上回る 9 ケースから長周期側に着目しまして代表ケースを選定しております。
0:08:02	25 ページをお願いいたします。
0:08:05	こちらは選定結果の 1 例となります。
0:08:08	赤線と緑線でお示ししました地震の評価結果を比較した結果、水平、鉛直方向の応答スペクトルの傾向が同様の傾向であること。
0:08:21	さらには、着目する周期であります周期、一部長周期の 1 秒から 5 秒の地震動レベルが水平鉛直方向ともに、赤線で示した地震動評価結果の方が大きいと。
0:08:35	ということ、さらには、時刻歴は系も同様の傾向になっているということから、着目するスズキ体の地震動レベルが大きい 8 河川でお示ししました。
0:08:46	地震動評価結果を代表ケースとして選定してごさいます。
0:08:51	以降、31 ページまで、この地震動評価結果をそれぞれ比較しまして、代表ケースを選定してごさいます。
0:09:00	28 ページをお願いいたします。
0:09:05	こちらの選定結果の 1 例となりますが、青線と大きい路線でお示した地震動評価結果を比較してごさいます。
0:09:16	その結果、水平鉛直方向の応答スペクトルの傾向が同様の傾向であること。
0:09:22	さらには、着目する周期体であります水平鉛直方向の長周期体だけでなく、全周期体で、地震動レベルが青線で示しました方、地震動評価結果の方が大きいと。
0:09:35	ということ、さらには、時刻歴は系につき、ついても同様の傾向となっていることから、青線の方を代表ケースとして選定しております。
0:09:46	しれ須川断層につきましては、この地震動評価結果をそれぞれ比較した結果、1 例としてご説明しました二つの比較パターンで整理してごさいます。
0:09:59	そ、その整理結果の中から代表ケースとを選定しているという形になってごさいます。32 ページをお願いいたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:10	こちら尻別川断層の大地震の評価結果のうち、S s ワンを上回るケースをすべて比較した結果、2 ケースを代表ケースとして選定し、それらを基準地震動として設定してございます。
0:10:25	34 ページをお願いいたします。
0:10:30	ここからは連動断層についてでございます。先ほどご説明した通り、S s ワンを上回る 15 ケースから、長周期側に着目しまして代表ケースを選定してございます。
0:10:44	35 ページをお願いいたします。
0:10:47	としまして代表ケースを選定してございます。選定結果の 1 例となります。赤線と、水色線で示しました地震動評価結果を比較した結果、
0:10:57	水平、鉛直方向の応答スペクトルの傾向が同様の傾向であること。
0:11:03	さらには着目する周期体であります。長周期側の 1 秒から 5 秒の地震動レベルが、水平鉛直方向ともに、赤線で示しました評価結果のほうが大きいということ。
0:11:16	また、時刻歴は系につきましても同様の傾向となっていることから、着目する周期での地震動レベルが大きい、赤線を代表ケースとして選定してございます。
0:11:29	以降を 44 ページまでがこの評価結果の比較という形になってございます。
0:11:36	38 ページをお願いいたします。
0:11:42	こちらも選定結果の 1 例となりますけれども、水色線と紫の線ですね、で示しました評価結果を比較した結果となっております。
0:11:52	その結果、水平鉛直方向の応答スペクトルの傾向が同様であること。
0:11:58	さらには着目する周期であります。長周期側ですね、水平鉛直方向の長周期側だけでなく、全周期体で地震動レベルが村崎西縁で示しました評価結果のほうが大きいということを確認してございます。
0:12:14	また、時刻歴は形を同様の傾向になっているということから、紫線の方を代表ケースとして選定してございます。
0:12:24	連動係数につきましては、ここをそれぞれ比較結果、比較をしてございますけれども、1 例としてご説明しました二つの比較パターンで整理し、代表ケースを選定してございます。
0:12:38	45 ページをお願いいたします。
0:12:43	連動をの評価結果のまとめとなっております。連動断層の地震動評価結果のうち、S S 湾を上回るすべてのケースを比較した結果、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:55	5 ケースを代表ケースとして選定してございます。
0:12:59	代表ケースとして選定した5 ケースにつきましては、基準地震動として設定するというで考えてございます。46 ページをお願いいたします。
0:13:11	ここからは、作田半島北西沖の断層のうち、層厚 0 同及び 20 度ケースについてご説明させていただきます。
0:13:21	前段でご説明させていただきましたが、積丹半島大野断層につきましては、走向 0° ケースと 20 度ケース、さらには 40 度ケースで傾向が異なるということから、
0:13:33	それぞれから代表ケースを選定してございます。
0:13:36	層厚 0° 20° ケース 2 につきましては、S s ワンウェイ上回る 10 ケースから、短周期側に着目しまして代表ケースを選定してございます。
0:13:48	47 ページをお願いいたします。
0:13:52	こちら、選定結果の 1 例となっております。
0:13:56	赤線と紫線で示しました評価結果を比較いたします。先、水平鉛直方向の応答スペクトルの傾向が同様の傾向であること。
0:14:08	さらには、着目する周期体であります。短周期側の 0.1 秒から 0.4 秒の地震動レベルが、水平鉛直方向ともに、赤線で示しました評価結果のほうが大きいということ。
0:14:22	また、時刻歴は系につきましても、同様の傾向になっているということを確認してございまして、着目する周期の地震動レベルが大きい、赤線の方を代表ケースとして選定してございます。
0:14:35	以降 55 ページまでがこの比較結果となっております。49 ページをお願いいたします。
0:14:43	こちらの選定結果の 1 例となりますが、赤線時、黄緑の線で示しました評価結果の比較となっております。
0:14:52	その結果、水平鉛直方向の応答スペクトルの傾向が同様の傾向であることを着目する周期体であります。水平鉛直方向の短周期だけでなく、
0:15:04	こちらにつきましては全周期体で、地震動レベルが赤線で示した評価結果のほうが大きいということ。
0:15:11	また筧につきましても同様の傾向になっているということから、河川の方を代表ケースとして選定してございます。
0:15:20	53 ページをお願いいたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:24	こちらの選定結果の1例となります。こちら比較対象ございませんけれども、赤線、失礼しました、青線ですね、青線で示しました評価結果が、
0:15:36	着目する周期であります短周期体で、地震動レベルが大きいということから、青線につきましては代表ケースとして選定してございます。
0:15:46	シャクたファンと北西沖の断層の走向0° 20° ケースにつきましては、それぞれ比較検討してございまして、1例としてご説明しました3、三つのパターンですね、三つの比較パターンで整理して代表ケースを選定してございます。
0:16:02	56ページをお願いいたします。
0:16:06	積丹半島北西沖の断層の走向0° 20° ケースの地震動評価結果のうち、エスワンを上回るケースをそれぞれ比較した結果、
0:16:18	4ケースについて代表ケースとして選定し、それらを基準地震動として設定してございます。
0:16:25	58ページをお願いいたします。
0:16:30	ここからは、色は遠く据え置き断層断層のうち、層厚40度ケースについてお示ししてございます。
0:16:38	層厚40度ケースにつきましては、S s W A Nを上回る5ケースから、短周期側、さらには長周期側にも着目しまして代表ケースを選定してございます。
0:16:49	60ページをお願いいたします。
0:16:52	こちら選定結果の1例となっております。緑線と、黄緑線で示しました評価結果を比較してございます。
0:17:01	その結果、水平鉛直方向の応答スペクトルの傾向が、同様の傾向であること、さらには着目する周期でございます。短周期側の0.1秒から0.4秒、長周期側の1秒から3秒、
0:17:17	地震動レベルが、水平、鉛直方向ともに、緑線で示しました地震動評価結果の方が大きいということ。
0:17:25	また、葉系につきましても同様の傾向になっているということから、緑線の方を代表ケースとして選定してございます。
0:17:35	層厚40度ケースにつきましては、それぞれ比較した結果、先ほどご説明しました020度ケースと同様に、三つの比較パターンで整理してございまして、代表ケースを選定してございます。
0:17:48	62ページをお願いいたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:51	40 度ケースのまとめとなっております。
0:17:55	40 度ケースの評価結果のうち、S s は上回るものをのケースをそれぞれ比較した結果、3 ケースを代表ケースとして選定しましてそれらを基準地震動として設定してございます。
0:18:08	64 ページをお願いいたします。
0:18:12	こちら、断層モデルを用いた手法による、基準地震動のまとめとなります。
0:18:18	検討用地震ごとに 14 の代表ケースを選定してございまして、それらを基準地震動 S s -2-1 から 2-14 として設定してございます。
0:18:28	以降 68 ページまで検討用地震ごとの基準地震動の応答スペクトル図。
0:18:35	70 ページから 77 ページまでは形をお示ししてございます。78 ページをお願いいたします。
0:18:45	ここから特定せずの基準地震動についてを示してございます。こちら前回会合より、基準地震動の設定の結果ですね、につきましては変更ございませんが、基準地震動の設定
0:18:58	でプロセスとしまして S s 案を超過するケースすべてを基準地震動として設定することに変更してございます。
0:19:06	84 ページをお願いいたします。
0:19:12	基準地震動策定のまとめとなります。結果としまして基準地震動は S s -1 から S s -3-5 まで、合計 20% 設定してございます。
0:19:23	以降、応答スペクトル図、最大加速度の一覧を示してございます。
0:19:29	最後に、二つ目の指摘事項の対応箇所についてご説明させていただきます。88 ページをお願いいたします。
0:19:39	一関東評価用の地震動の鉛直方向の設定にあたっては、一関東の水平方向のはぎとりは、3 分の 2 倍した応答スペクトルをもとに、模擬地震は、を作成してございます。
0:19:55	これは N o d a アアラ 2002 の水平鉛直方向の応答スペクトルの比、こちらを参考に、一般的な水平方向の地震動に対する
0:20:07	鉛直方向の地震等の比であります、3 分の 2 を考慮しまして設定してございます。
0:20:13	本日のご説明については以上となります。
0:20:21	はい谷です。説明ありがとうございました。
0:20:24	それではですね、資料の方事実確認していきたいと思えます。
0:20:29	まずう私の方からなんですけれども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:33	ちょっと全体的な話として、
0:20:36	確かにですね前回コメントに対応してどれがどれに代表できるのかとか いう話が、まず
0:20:45	はっきりしていないと。
0:20:47	そういったことについてはですね、あれが造形たけど、大丈夫ですか。
0:20:54	聞こえてますか。
0:20:57	はい。はいはい。北海道電力ですが声は聞こえております依存も見えて おりマースはい。
0:21:03	それで、まず段数モデルを用いた手法っていうのは1%も決めたのか比 較していってると、そういった説明になってると思っててどれとどれを
0:21:15	比較して、どっちを代表させるとかそういう考え自体は、
0:21:21	わかりやすくなっているんですけども、
0:21:25	ただちょっとお願いしたいのが、これ全体として、
0:21:29	何て言うんですかね。
0:21:33	結果がずらずらずらっと並んでいるような、断層モデルを用いた手法に よる基準地震動の選定ですね。
0:21:41	ここはちょっと最初に考えと、こう、こういうプロセスでこうやって選 んでるんですよ。
0:21:49	その一つ一つのプロセスはこういうところを見てるんですよ、こういう 理屈があるんですよとか、そういうのをですね、
0:21:56	ちょっとははっきりわかるようなペーパーをつけて欲しいのと、あと結 果の部分ですけども、それについてもですね。
0:22:05	すべてがすべて見なくても、どれがどれに代表させれてるのかとかいう 話は何か一覧でまとめるとかですね。
0:22:15	或いはフローフローを使ったときに、どの段階でこうなんか、どうい うところで着目した時に外れているのか。
0:22:23	例えば、39 地震、
0:22:25	以外はもう最初のところで外れてますよね。そのあとどういう形で外れ ていくのかとかその辺がちょっと、
0:22:32	わかりやすいわか分かるような、資料にしていきたいんですけど も。
0:22:41	お願いできますかね。
0:22:46	北海道電力野尻です。はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:51	今、ここの結果はわかるけれどそれが今一覧というんですかね全体の考えなり結果っていうのがわかりやすくということで、今の
0:23:00	お話ですと考えると、
0:23:03	どこだろう。うち、
0:23:05	前半、例えば7ページとかの、
0:23:10	後がいいのかわからないという意味よりはここの検討の、
0:23:15	何かだから基準地震動2の2章の頭っていうイメージなんですかそれとも、
0:23:21	全体検討概要として頭の方に、7ページの後ぐらいに、
0:23:26	断層モデル法の部分の詳細としてこれを、こういう考え方で、まず選定しますプロセスとしてやりますと結果としてこういう段階で落ちましたっていうのがわかるようなものが、
0:23:38	入ればいいということでよろしいですかね。
0:23:41	はい細かいどういう作り方するかとかお任せしますが、まずこの資料全体としての概要を、もう、
0:23:50	それはあるっていう話なのかもしれないんですけども、
0:23:55	そうですねそれと今議論になっている、今論点になっているのは
0:24:00	断層モデルを用いた手法による、
0:24:03	それをどう選定するかっていう話なので、そこは特に厚くして厚くしてというか内容がしっかりわかるようにまとめていただきたいんですけど。
0:24:15	という観点でいうと窓、どっちに入ってもいいと思うんですけどもね。
0:24:19	とにかく北海道電力としてこういう検討を前回、前回の会合以降にこういった検討をやってきたんですよっていうのが、
0:24:27	わかりやすくまとめたものが欲しいというところです。
0:24:32	いいですかはい。北海道電力野尻です。はいご指摘は理解いたしました断層モデルはに関して前回指摘いただいておりますのでその結果、我々の検討内容をこういうふうに変えたこういう考えだったというところについては入れさせていただきます。
0:24:47	三つですね39はもともと検討しても100%ぐらいあると思うんですけど100から39になりましたっていうのはまあS s1を超えるか超えてないかでいいと思うんですけど、そのあと39から14になるところっていうのは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:01	ある意味段階があるわけじゃなくて、
0:25:04	それもう、恒例と比較して落ちるってところの同じステージで全部多分結果が出ちゃっている。
0:25:11	それで前回ですと特定せずの比較もあったんですけど、今回そういうことになるんであんまり、
0:25:16	多分フローとしてステージ事にはならないかなと思ってますと、例えば断層ごとにね、
0:25:23	何%超えてて、何歩もともとあって何%超えてて、
0:25:29	その比較によって外れたのは何%で、比較、比較によってというか何かここの比較じゃないもの。
0:25:37	いややっぱりこれ大きいから選びましょうって言って選んでるようなものもありますよね。そういった
0:25:43	僕が言い方悪かったかもしれないけどそれだけ、もう検討のプロセスがわかるような形で整理して欲しいというところです。
0:25:53	わかりやすいっていうのをどうどう作るかっていうのをお任せします。
0:25:59	はい北海道電力の神さんは趣旨は理解したつもりですので我々としてわかりやすいもの一目でわかるようなペーパーを作るように、廃止したいと思いますありがとうございます。
0:26:10	はい、谷です。あと1点さっき私1個1個の話はわかりましたっていうのも、野地参与、そういうそういうふうに
0:26:19	受け答えしてくれてますけど1個1個の技術的な内容はわかったって言うてるんじゃないかって、どれとどれを比べているかっていうのがわかったんだよっていうのを言っただけなので、
0:26:29	はい。
0:26:30	で、続いてなんですけれども、
0:26:33	前回の、
0:26:35	今回こうやってこう比較したっていう、プロセスはわかったんですけども、前は、やっぱりもともとその30、違う違う。
0:26:48	39地震のうち13地震でしたっけ、その一部の周期体でも大きくなるようなものを、それに着目しました。一部の周期体でチャンピオンになるもの。
0:27:00	に着目し、するのをスタートにしてたと思うんですけど、この辺の何ていうか一部の周期体に、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:10	が向こう最大になる地震動っていうのは、今回特に触れていないんですけど、その考え方として、前回、
0:27:21	結構考えてたんだけど今回こうしたっていうのは、その辺は、
0:27:26	どういうふうなお考えになってるのかを確認させてください。
0:27:36	はい。北海道電力高橋でございます。谷さんおっしゃられていることは前回と今回の考え方の違いというところでございます。かなと思ってございます。
0:27:47	前回につきましてはチャンピオンケースで
0:27:51	一部の周期体というかですね、どっかの周期体でチャンピオンケースのものを採用していると、いうことではございましたけれども、今回はまず、基準地震動S sは
0:28:04	この関係性が、再度整理をし直したというところでその整理の際に、検討用地震の諸特性ですね、を踏まえて検討用地震ごとにまずは代表ケースを選定しようということで考え方を変更してございます。
0:28:22	その代表ケースの中から、着目する周期ですねそちらにちゃ
0:28:29	着目する周期体、地震動の8Kの
0:28:34	特徴ですね特徴を踏まえて、
0:28:38	着目する周期体、地震動レベルが大きいものを代表ケースとして今回は選定しているという形になってございます。
0:28:49	はい。はい。規制庁谷です。はい。言われていることは、
0:28:54	何となく資料からも伝わってくるんですけども、結局だから13係数、
0:29:01	あったんだけどそれはもう選ばなくて、特にその13だけを特別に見て、何かしなくていいっていう、
0:29:11	その辺の考えがですね、いわばやっぱりそこは意識しているのか意識していないのか、全くコアを朝にしているのか。
0:29:20	前は何か壊死あんなだったかな施設との影響とかも、そういった話もしてたと思うんですけども、そこをこう、
0:29:28	何か、
0:29:31	前回の考え、
0:29:35	前回の考えが今回の考えに変えたことによって、そのデメリットみたいなものはないんだよっていうような、その辺の説明をですねちょっと加えてもらいたいっていうふうに思うんですけども今さっき説明したことに、もう少しこう、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:51	加えていただけたらいいと思うんですけど、ちょっと今の資料見ててその辺の考えが今のところわからないというところですのでお伝えしておきます。
0:30:05	北海道電力野尻です。はいわかりました。今回の資料に関しては今回改めて考え方を見直した考え方の中で資料化をしているというところで前回との比較というのは特に触れてない。
0:30:18	とと思ってますんでそこについては資料の中でですね、
0:30:22	前回の考えから今回に変えたことデメリットという言い方にはならないとは思いますが何らか、ちょっとそこについては、できているというようなことになるかと思えますんで、ちょっとそこは入れたいと思います。
0:30:35	はい、谷です。うん。そうさういう。
0:30:39	ちょっと間考え変えたことについてお願いします。
0:30:43	あとはですね、ちょっとそのんな資料を読んで、
0:30:49	いいんですかね。言葉足らずというか行間が、
0:30:55	ほい、ない部分というのをですねちょっとちょこちょこ確認していきたいんですけども。
0:31:01	まず6ページで、
0:31:05	すごい僕僕が言うの例えばみたいなどころなんですけれども、
0:31:10	基本的な考えを示していただけてますんで、その中に、まず応答スペクトルに基づく、一つ目の矢羽根ですね、手法による基準地震動を超過するものを、
0:31:21	個別派として考慮することを基本とするってありますよね。これ、
0:31:27	39ケースの話してるんだけど、いわゆる39ケース以外は応答スペクトルに基づくSES S1を超過しないやつはもうここで選ばないよって宣言してるわけなんですけど。
0:31:38	そこななんでなんですか。何で選ばなくていいんですか。
0:31:42	いやヨウ素ガイドでは、有意に上回る場合には、ていうような
0:31:48	文章になってるんですけども、北海道電力としては、盲腸化、
0:31:54	するものだけ選んでおけばいいんだよってていうような話をしてるっていう、この辺もちょっと丁寧に説明して欲しかったり、
0:32:01	二つ目の矢羽根は、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:05	超過するケースから検討用地震の地震動の諸特性を踏まえた上でっていうこの諸特性っていうのは、基本的には何の話をしているのか、諸特性を踏まえたから、
0:32:24	これは各、
0:32:27	地震でこの周期体に着目しますよって言う話なのか。
0:32:33	それとも、
0:32:34	時刻歴は形とかの特徴とかも含めて言ってるのかとかいうのが何か諸特性っていう非市、
0:32:43	一言でちょっとよくわからないなっていうのが、
0:32:46	あります。ちょっとここを今確認した点。
0:32:51	今何か今、考えがあったら聞きますけど、
0:32:58	はい。北海道電力の高橋でございます。まず一つ目のものでございます S s ワンを超過するものを個別版として考慮するということを基本としてございますけれども、
0:33:10	基本的には S s は新岡包絡されているということから S s の方がすべて与える影響が大きいということで考えてございまして、そちら S s を超えるものを、
0:33:23	個別案として考慮することを基本とするというか基本的な考え方を持っているものでございます。
0:33:29	あと二つ目の地震動の諸特性についてでございますけれども、こちら検討用地震ごとに、代表ケースを選定していくというプロセスに繋がるものでございまして、
0:33:42	検討用地震ごとを応答スペクトルの形状であったり、葉系の形状をさらには継続時間ですね、そこら辺を確認した上で、検討地震ごとにそれぞれ特徴があると。
0:33:58	いうことを踏まえまして検討用地震ごとに代表ケースを選定していこうということで考えているものでございます。こちらにつきましては少し記載の方を
0:34:10	言葉足らずというか、説明が不足してる部分もございまして、若干修文ですね
0:34:17	説明の方をさらに追加したいと思ってございます。以上でございます。
0:34:24	井谷です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:26	そっかこれあれか、一つ目の矢羽根の応答スペクトルに基づく手法による超過するものっていうのは二つ目の矢羽根で、施設に与える影響を考慮して、ここ、ここと同じことを言ってるってことですね
0:34:43	はい、北海道電力高橋でございます。そうですね。二つ目の施設への影響を考慮するということに繋がっていくということで考えてございます。
0:34:51	だから、応答スペクトルに基づく S s 1 を選んでおけば代表できるんだと。
0:34:57	いうことを言ってるんですね。
0:35:00	わかりました。わかりましたというか、何かちょっとその、
0:35:03	うん。
0:35:05	うん。
0:35:06	一つ目の矢羽根の方とかにも、何かしっかりと考えを変え、変えて欲しいなというのがあります。
0:35:14	でですね。
0:35:17	ここからは何か一つ一つの話になっていくんですけども、
0:35:37	これちょっと最初に聞いておきたいんですけども、
0:35:40	前回各種規程で一部の周期で
0:35:45	一番大きくなったよっていってるものの中で、今回選ばれていない。
0:35:52	そのケースっていうのは、
0:35:54	どれなんでしょうちょっともう何ページとかいう言い方でいいんですけども、
0:36:01	教えてください。
0:36:04	はい北海道電力野尻ですもともと 13 ケースが前回どこかでチャンピオンになると言っていてその中で今回 9 ケースは選んで結果として選ばれてますと。
0:36:16	いうことなんで予算という、抜けてるといふか四つ。
0:36:23	は今回選んでないと言った。
0:36:26	41 ページですね、これで 6 の方なんで、村崎ですかね野呂の。
0:36:34	方ですねそれが一つ。
0:36:39	それから、47 ページ。
0:36:46	こちら積丹半島布施沖の地震の倉庫 0° ケース、こちらの破壊開始点 1 の方ですね、これの紫色ですねこちら紫色のやつ。
0:36:57	それから 48 ページ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:00	の、こちら側も同じですね側溝をや破壊開始点 4 の方ですねこれも臼井村崎というんですかね、このケースで三つそれからもう一つが、
0:37:13	59 ページですかね、層厚 40 度積丹の層厚 40 度の、
0:37:18	これの応力降下量の破壊開始点に、
0:37:23	の方ですがこちら水色ですかね、のケースとこの四つについては前回、どこかでチャンピオンになると言っていたけど今回は、他のもので代表できるという判断で落とし入れてないというものになります。
0:37:36	再確認できました。41474859 ですね。わかりました。
0:37:44	再確認できました。
0:37:46	それで、あとはですね、これ、ほぼほぼ同じような、例えば 25 ページから話をしていきましょうか。
0:37:58	四角囲みっていうのはほぼほぼ同じようなことが、
0:38:04	書いてますよ 25 ページにしても 26 ページにしても 27 ページにしてもですね。
0:38:12	ですねえ。
0:38:16	これ結局どういう比べ方をしたんですかっていうところを、
0:38:23	もう少しですね
0:38:27	細かく、細かくというか考えを、
0:38:30	示して欲しいなって思ってるところがいくつかあって、
0:38:35	まずこれ比べますよって言ってるのが、
0:38:40	何だっけ。
0:38:43	周期を決めて着目する周期体をこれ決めましたと。
0:38:49	そこの周期体で、もう各方向 N S E W U D 全部見ますよっていう話ですよ。
0:38:59	そこのレベルを見ます。それぞれを見ると、
0:39:04	例えば 25 ページだったら 1 秒から 5 秒の地震動レベルが、この赤の方が大きいですよって言って、それをこれでまたっていう時刻歴は形の傾向の話をしてるんですけど、
0:39:17	これってあれなんですかね
0:39:19	同列で見てるんですけどまず
0:39:22	応答スペクトルの地震動レベル等、その時刻歴は形で、こういうのがあったらこう、
0:39:29	選定しようっていうのはもう同列っていうことで考えてるのかそれともその

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:34	あくまで応答スペクトルを主で見て、その中で何て言うんすかね時刻歴は形で、
0:39:41	おかしなものがあったらそれは選定できないとかそういう考えなんでしょう。ちょっとその軽重みたいなところを確認させてください。
0:39:53	はい。北海道電力高橋でございます。まず比較にあたってでございますけれども、まず、応答スペクトルの全体の傾向をまず確認するということになってございます。
0:40:06	こちらARTを、こちらの方が同様の傾向にあるということを確認の上、着目する周期ですねこちらの地震動レベルの大小ですね、そちらを確認していると。
0:40:20	さらには8Kの方も確認してまして、こちら破壊開始点が異なりますので若干主要度のきてる時間体というのはずれては、
0:40:33	言いますけれども、は形の形状をについてはほぼほぼ同じような形になっているところを確認していると、そちら三つ、ですねは形なり応答スペクトル傾向が同じと。
0:40:45	いうことを踏まえまして、着目する周期体の地震動レベルが大きい方を代表ケースとして選定しているということに、
0:40:56	なってございます。従いまして地震動レベルの方だけを確認して代表ケースを選定しているわけではなく、
0:41:06	八景なり応答スペクトルの傾向が同じということを確認の上地震動レベルが大きい方を代表ケースとしているということで考えてございます。
0:41:17	以上でございます。浜井谷です。
0:41:21	何か、それで言うとなんと同列なんだと地震動レベルが
0:41:29	だから、時刻歴は系の傾向が同じものではないと、何て言うんすかね比較してこっちに代表させるってというような話はしていないんだっていうふうな、そういう
0:41:43	何か説明に聞こえたん。
0:41:45	んですね。それで応答スペクトルの比較っていうのを要するに
0:41:52	どういう、どういったらいいのかな。
0:41:55	まず、あれですか時刻歴八景の傾向が同じであるというのが先に。
0:42:01	あるっていうこといいんですか。
0:42:03	比較するとき。
0:42:12	はい。北海道電力の高橋でございます。そちらについては正木後という話ではなく、まず応答スペクトルの傾向なりは形の傾向を形状ですね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:23	を確認した上で地震動レベルのところも確認しているというところで後先というわけではなく、同時に確認していったという形になってございます。
0:42:38	何か横井。
0:42:43	何か聞いてても何か同時に確認していった、でも、でもですよ、何か全然違う傾向のやつをここにこう並べて、
0:42:54	横、
0:42:55	こっちに代表できるとかいう話はしていないわけじゃないですか。
0:42:59	ここで細かいことを説明いただく聞いてもちょっとこうなんかわかりにくいんですけど、この辺のね多分細かい、細かくというかどうかという観点でどういうところに着目して比較し、
0:43:15	見てて、例えば、同様の傾向となっているってということがどういう条件なのかとかいう、
0:43:23	ですね、もう少しこう、
0:43:26	方針のところなんですかね。
0:43:29	そこでちょっと説明してもらえた方がいいかなと今のお話を聞くと同時に、両方、両方、
0:43:37	傾向が一緒であるっていう中で、地震動レベルを見てるんだっていうことを言われ、
0:43:44	てる。
0:43:46	ということでもいいん
0:43:48	いいんですよ。
0:43:52	はい。北海道電力高橋でございます。そうですねおっしゃられた通り、まず応答スペクトル基本的には比較する場合一つ一つ、何ていうかね力技でそれぞれ比較していっていますので、
0:44:05	全く傾向が違うものは、比較していないという状況にはあります。なので同じ傾向にありますというところとは形の形状を確認した上で地震動レベル、着目する周期の地震動レベルを確認しに行っていくと。
0:44:22	というような形になってます。
0:44:24	御説明については以上です。
0:44:26	はい。状況わかりました。ただ、多分これは資料を読む人でその辺のやりたいことっていうのが、やりたいことでやってきたことっていうのがちょっと、
0:44:38	わからないような記載には見えるので、その辺ちょっと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:43	丁寧に一度説明、説明資料上、説明していただけたらなと思ってます。
0:44:49	あとね、
0:44:50	そうだ。
0:44:53	24 ページで例えば着目する周期体を決めましたよと。これは例えば、
0:44:59	それ 16 ページで説明があって、
0:45:03	尻別川断層の特徴を踏まえるとここの周期体で大きい、だから、
0:45:09	これ、具体的に言うと鉛直方向の長期、長周期側の地震動レベルが相対的に大きい。だからこの周期体を着目するんですって言わんとしてることわかるんですけど、
0:45:21	なぜここの周期体だけを、着目すれば、
0:45:26	大丈夫なのかっていう
0:45:28	なんかは、反対の考えからすると、
0:45:34	んや他のところは本当全く見なくていいんですよっていうのがですね、そこが、
0:45:40	何て言うんですかね説明が、
0:45:43	されていないわけなんですけど。
0:45:45	この辺って補足するとしたら、何でここ、S s1 を、
0:45:50	上回ってるところだけを特に見とけば大丈夫なのかって言うのを、
0:45:56	ちょっと考えを教えてもらっていいですか。
0:46:04	はい。北海道電力の高橋です。例えばですが尻別川断層で言いますと、まず S s は上回ってるのが鉛直方向の小周期側だということ。
0:46:16	あと検討用地震同士を比較しましても S s を超えてる部分になりますので、検討用地震の中でも相対的に鉛直方向の地震動レベルが大きいというところ。
0:46:30	それから、尻別川断層につきましては長周期側を着目する周期体ということ考えているということになってございます。
0:46:39	こちら、その着目する周期体で地震動レベルが大きいケースというのがなぜ施設に与える影響が大きいということかといえるのかというようなご質問なのかなというところかと思ってございますけれども、
0:46:55	こちらの代表は、の選定に当たりましては、比較するケースごとにその応答スペクトルの形状なりは形の形状が同じということを確認した上で、
0:47:09	地震動レベルのところに着目しに行っているというところを考えてございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:15	従いまして選んだ代表は、については、大体他のものが同じような傾向にある中で着目する周期というか、地震動レベルが大きいところ、
0:47:26	選定されているということから、地震動レベルが大きい交流施設へ与える影響が大きいものが選定されているということで考えてございます。
0:47:39	はいたんです。
0:47:41	えっとねその辺の考えをちょっと書いてもらったほうがいいかなと思いますだから、地震のレベルがこの地震、この例えば尻別川だったら、ここは大きいからこの施設に与える影響が大きいこの周期がある。
0:47:55	施設では、
0:47:57	この尻別川っていうのはこの周期で、何て言うんですかね施設の影響が大きいんだというのを
0:48:04	だからここを見るんだっていうのをですねちょっと書いてもらえたらと思ってるのと、それはあれですよ。UD方向で、例えば大きくても、
0:48:14	それは多分、場合によっては3成分でこう考えることがあるから、EWもN-Sも同じように、この周期体に着目するんですってそう、そういう話でいいんですかね。
0:48:27	はい。北海道電力の高橋でございます。谷さんおっしゃられる通り、0でございます。尻別川断層につきましては鉛直方向の定周期側の地震動レベルが基本的に相対的に大きいという形になってございますけれども、
0:48:42	着目する周期体としましては、鉛直方向だけではなく水平方向、NSEWについても着目して代表派の方を選定しているという形になってございます。以上でございます。
0:48:59	はい。考えはわかりましたよ。それを
0:49:03	わかるようにしていただけたらと思います。
0:49:08	あとはだからあれですかねこれたえパー。
0:49:12	多分また25ページに戻りますけど、
0:49:15	例えば25ページでS s1を超えてるのはUD方向の長周期側だけなんですけれども、
0:49:23	例えばこの周期体で、
0:49:25	何て言うんですかねS s1、EWN Sっていうのは、
0:49:31	S s1を上回っていない。
0:49:33	わけですよ両方が。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:35	そうであってもこの大小っていうのは、しっかり見ますよと。例えば、
0:49:44	この中でE Wだけ。
0:49:46	例えばっていう点実例出した方がいいのかもしれない今出てこないんですけど、どっかの周期体だけこの、この種着目する周期体で、
0:49:54	E Wだけ、例えば緑が大きくなったとしますよね。そうした時にはもう代表できないっていう、そういう考えで
0:50:04	ずっと資料見ていったらいいですか。
0:50:09	北海道電力の事実そういう考えです。ただE WNSとかE Wでして、S s 1を下回ってるところについても当然大きい方、他のものをすぐUDと同じように見てますと、
0:50:23	ということですただ100%包絡してるかっていうと多分一部微妙に超えるのもあるとは思ってます。ただそれについては地震動レベルとしてその周期体として見て、
0:50:33	大きいものがきちり選ばれているということで判断してます。以上です。
0:51:36	はい。続いてちょっともう本当細かい話になっていくんですけど、
0:51:41	37ページg。
0:51:51	例えばこれ、ここ、この断層は、
0:51:56	37ページの、
0:51:59	この比較っていうのは、
0:52:01	ブルーの線と濃い濃い紫の線ですか。
0:52:06	黒ですね。
0:52:07	比べて、
0:52:10	青に代表できるって言ってるんですよ、青い線の方に。
0:52:16	でも、何かNS方向を見ていくと、いやいやこれ黒の方が、
0:52:23	上回ってる周期体がありますよとか、逆転しているような部分もちょこちょこ他の資料でもあるんですけど、
0:52:32	他の比較でもあったと思うんですけど、
0:52:36	そういうやつってこうなんかこう、
0:52:40	だけど代表できるんですけどっていうのが、
0:52:42	何て言うんですかね、資料見てもあんまりわからないんですけども。
0:52:47	この辺のもう少し細かい話をしたときに、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:51	ここの辺、これこっち側に代表できますっていう理屈はどういうふうに考えてるんですか。
0:53:04	はい。北海道電力高橋でございます。丹治さんおっしゃられているのが今、37 ページで言いますと、濃い青ですね濃い青と黒の線で今比較していますと、
0:53:17	こちらにつきましては
0:53:21	青い線ですね青い線で今代表させるという形にしておりますけれども、例えばN S方向の長周期側で一部、対照関係が逆転してる部分があると。
0:53:34	そちらにつきましては、地震動レベルの比較の話になりますので、その地震動レベルについては、大きいものを基本的には大きいものを選定する代表の方で選定するという事で考えてますけれども、
0:53:49	先ほど野末の方からもありましたが一部周期でその大小関係が逆転してるものも、確かに中にはありますと、ただ、その周期体ですね、比較にあたって見ている周期体ここで言いますと長周期側になりますけれども、
0:54:04	この長周期体での全体的な地震動レベルですね。
0:54:10	として考えてございましてその地震動周期体の時、着目する周期の地震動レベル全体で見ますと、青色の線の方が大きくなっているだろうということで今考えていると。
0:54:22	いうものになってございます。従いまして一部、主一部の周期ですね、大小関係逆転してるものもありますけれども、周期体として今、我々としては考えているというものでございます。以上でございます。
0:54:37	うんはいたんです。曾根だから。
0:54:40	もうすごい細かい話ですけど周期体で考えていいんですよっていうその辺の周期体で考えればこちらの地震動の方がいいんですよそれ一部のことをあんまり気にしなくていいんですよって。
0:54:55	そこがですね。
0:54:57	多分、
0:55:00	なぜなんだろうっていうのが、
0:55:07	分ぼんやりとした話はわかるんですけど、施設に対しての影響として、なぜなんだろうっていうのをちょっと感じるんですよね。何かこういう例えばこう逆転するようなところは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:19	北海道電力としてはいいんです周期体周期体でもうちょっと広く見たら、
0:55:27	あんまり気にしないでいいんですっていう。
0:55:30	話なのか。
0:55:34	とかいうのをですね、ちょっと丁寧にこれは書いて欲しいなっていうふうに思いますけど、いいですかね。
0:55:50	はい。北海道電力の高橋でございます。そこら辺の考え方をもう少し丁寧に記載するという、
0:56:01	ご指摘というかご意見かと思しますので、我々として書けるところをですねきちんと修正資料の方で
0:56:12	修正していきたいということで今考えてございます。以上でございます。はい。大丈夫です。そうです。その説明っていうのは、S s1より低いレベルのところの細かいような話は、
0:56:26	別にいらないんですけれども、例えばS s1を超えてるような周期体で逆転してるようなものについて、どういう理屈なのかっていうのは、もう少し細かい話が要るかな。
0:56:38	そういう考えで見えていかないと我々も確認できないなというふうに思ってます。
0:56:58	あ、規制庁サービスですけど、ちょっと
0:57:02	タニの方からあったお話なんですけど、
0:57:05	やっぱりですね、
0:57:08	資料を見ていて、
0:57:10	なかなかですね、わかりづらいところがやっぱりたくさんあって、一番わかりわかり、
0:57:17	にくいのは、
0:57:19	結局この、
0:57:20	前回コメントしましたけど、断層モデルを用いた手法。
0:57:25	ここの整理がちょっとやっぱりよくわからなくてですね、まず必要なのは、
0:57:32	これ、16 ページとかに何かこう書いてますけど文字だけ書かれても、実はよくわかんなくて、
0:57:41	どういう。
0:57:44	流れっていうんですかね、どういう基準で、
0:57:49	1000、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:51	てするのかもしれないのかっていうのが、実はですね、これ私だけなのかな とか思ったんですけどそうでもなくてよくわからないっていうのが、
0:58:01	どうしてもあって、
0:58:02	まずですね。
0:58:04	私がいわからなかったのは、
0:58:09	20、
0:58:11	4 ページ以降で、例えばですよこれあの例な 1 例なんと言いますけれど も、
0:58:18	例えば尻別川断層による地震で、
0:58:20	24 ページでは、基本的には S s 1 を上回る 9 ケースですね、ここから、
0:58:27	選定をしていくんですけども、その際に、特徴がこれの尻別川断層に よる地震というのは、長周期側、
0:58:38	周期の 1 秒から 5 秒っていうのが、地震動レベルが大きいんでここに着 目して、代表ケースを選定しますって言ってるんですけど。
0:58:48	その 25 ページでいきなりですね、
0:58:53	企画が始まっているんですけど、この不確かさ考慮モデル断層の傾斜角破 壊開始点 1 と、破壊開始点 4。
0:59:03	いきなり比較されていて、この後もずっと、例えば見ていくとですよ。
0:59:09	破壊開始点 4 はそうなんですけど、その比較の対象が、
0:59:14	赤井甲斐支店に、
0:59:16	3、
0:59:20	だから結局は買い替えして 123 と 4 を比較するんですけど、なんでこの 四つだけなのっていうのがまずわからないんですよ。
0:59:29	で、そのあとにいくと、また別の、今度応力降下量って破壊開始点 4 と、他のものを比較していると。
0:59:38	ただしこの 9 ケースをすべからず全部ですね比較しているかっていうと そういうわけじゃなくて、
0:59:45	言ってしまうと、まずこれって例えば 24 ページで、よくよく見てい くと、
0:59:52	何か二つのこの尻別川断層による地震でも、何か二つのグループぐら いに何か分かれそうだと。
0:59:59	いうところがあってこの二つのグループの中からさらに、じゃあどれで 代表できるのかみたいな、多分そんな流れで見てるのかなと思ったん ですけど。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:11	そうするとやっぱりそ、そういうものがないと、例えばですよ。
1:00:17	今 25 ページで、断層の傾斜が破壊開始点 4 等、
1:00:22	比較してるのは、
1:00:24	25262728 ぐらいまで、
1:00:28	ということで、
1:00:30	三つだけしか比較してないんです他のは何で比較しなくていいのとかです ね。
1:00:35	当然そういう話になってくるんですよ。
1:00:38	で、まずそういう点がよくわからないこれ尻別川断層だけじゃなくて他の 断層もそうですね。
1:00:44	だからまず多分、
1:00:46	何か特徴それがだから、応答スペクトルの特徴なのか。
1:00:50	高橋さんから、
1:00:53	説明ありましたけれどもそーいやそーじゃなくて、とは形自体の、
1:00:58	特徴で何かこうグループ分けみたいなのをした上で比較をしているの か。
1:01:04	ていうのがまずわからない。
1:01:06	で、
1:01:07	先ほどいろいろ確認あったんですけど
1:01:11	多分比較した結果、
1:01:13	例えば 25 ページだと、
1:01:16	長周期側の地震動レベルっていうのが、
1:01:20	破壊開始点 4 の方が大きくなってますよって話なんですけど。
1:01:24	当然ながら、
1:01:26	先ほどのご説明では周期体に着目して、だから、当然周期 1 秒だったら こっちの方が大きいんだけど周期 2 秒だったら逆のものが大きいってな った時に、
1:01:37	いやいや、そういうのは当然あるんだっけ、あるんだけども、ある周期 体バンドで見て、こちらの方が大きいですよとか、
1:01:44	そういう判断をされているんだったら、そういうふうにも多分書くなり、
1:01:50	場合によってはそのバンド幅だったら、以前多分何かありましたよね。
1:01:54	定量的な話とかっていうので、
1:01:56	S I 値ですよねスペクトル共同みたいな、そういう話もあったと思うん ですけど、そこまで出すかどうかは別として、とにかく、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:04	どういうふうと比較をして、じゃあこっちの方が大きいんですけど、
1:02:10	わからないんですよ。
1:02:12	さらに言うと、
1:02:17	その大きい小さいって言いながらも、
1:02:22	すいませんこれすごく細かいことかもしれないんですけど、
1:02:26	ある何かこうずっと見ていくと、結構前中期体で大きくなっているって いうような、
1:02:34	例えばですよ、例えば 59 ページに、これ地震動レベルが全周期体で 大きくなっているって、
1:02:40	言ってますけど、
1:02:41	これ要は赤が緑、緑より、全周期体で大きくなってるって言ってますけ ど、
1:02:48	本当ですかね。例えば E W、
1:02:51	方向の、
1:02:52	0.1 何秒ぐらいのところとか、
1:02:59	要は全包絡本当されてますか、っていう、 N S 方向だって同じぐらいで すよね、0.1 秒から 0.2 秒ぐらいのところ、これ緑のほうが大きくなっ てないですか。
1:03:08	上下動 U D もそうですよね。0.2 秒から 0.3 秒ぐらいのところの緑のほう が大きくなってませんかという、
1:03:15	ちょっともうちょっと細かく見ると
1:03:17	何かちょっと言ってること違わないですか。
1:03:19	とかですね。
1:03:21	そういうのがあって、非常にこう、
1:03:25	選定をしてってどっちがどっちで代表できる、この地震、この断層モデ ルによる地震で代表できるんだっていうところが、
1:03:34	ちょっと考え方がやっぱりよく、
1:03:37	わからないんですよ。
1:03:39	だからそれがまずわかるものを最初に、
1:03:42	つけていただきたい。どういう手順で、
1:03:46	どういう基準で、こっちで代表できるんですと。
1:03:51	というのが、やっぱり見ててわからない。つまり代表性の話ですよ。
1:03:56	もっと言うんですねこれちょっとあったかもしれん 43 ページ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:01	これ私、全然わかんなかったんですけど、
1:04:04	書いているのは、時刻歴派遣も同様の傾向になって、どう見てもこれ同様じゃないですよ。
1:04:10	藤。
1:04:11	私は少なくとも思うんですけど、この辺りですよ。
1:04:15	何をもってこう同様と言ってるのかすごく、全体的に、
1:04:20	言ってしまうとアバウトなんですよ、同様の傾向。
1:04:25	地震動レベルは大きい、大きいって小さいところあるよねとかですよ。
1:04:30	ちょっとやっぱりそこがわからないので、まずは、
1:04:34	特にこの断層モデルのところは、どういう手順で、どういう考えに基づいて、こちらで代表できるんだという、
1:04:43	判断をしてるのかっていうのわかるのをまず最初に付けていただきたいと思うんですけど。
1:04:47	よろしいですかね。
1:04:56	はい。北海道電力の高橋でございます。佐口さんおっしゃられているところですね、どのように、は判断していったのかというところと、どのように比較していったのかというところがわかるような資料を、まずは頭の方ですね、につけて、
1:05:13	欲しいというかつけた方が良いというようなご意見かなと思っております。そちらにつきましては冒頭ですね谷さんの方からご指摘ありましたので、
1:05:25	全体の概要というものがわかるような資料をですね、まずは作成して資料の方に追加したいということで考えてございます。
1:05:36	お話の中でありましたその比較についてでございますけれども、比較については嵯峨さんおっしゃられるように、何となくの傾向という考え方もあろうかと思っておりますが、
1:05:49	今回我々として作業としては、一対一ですべてチェックをかけたというところになっております。なので全く違うオートスペクトルの形状で全く違うものについては、資料としては残してはございませんけれども比較自体はしているという形になってございます。
1:06:08	なので、今回資料化してるものについてはその比較結果のみを記載させていただいているといった状況になってございますのでそこら辺の

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:19	選定のプロセスですね、が若干、記載が不足してるというところもありますのでそこら辺については資料の方見直していきたいと、いうようなことで考えてございます。
1:06:29	以上でございます。
1:06:31	はい規制庁佐口です。今ですね、今ご説明あったようやくわかったんですけど、最終結果だけ載せてってそれは多分資料じゃわからないですよ。当然だからフローみたいなのが、
1:06:43	あって、今回、資料化してるのは、最終結果として載せてますっていうんだったらわかるんですけど、今の資料だと少なくとも私が言ったように例えばですよ。
1:06:55	尻別川断層で、断層傾斜角等、破壊開始点 4 と、
1:07:02	基本震源モデル、破壊開始点 2 とかって本当に比較してますかって、少なくとも資料上はないですよ。
1:07:11	だから、まず、
1:07:14	まず全体を通して見たときに、
1:07:17	何かこれ、こういうグループ化みたいなのがまずできそうだその等特徴としてですよ、冒頭ステップの特徴として、
1:07:25	だから、その同じようなものについて、それぞれ、
1:07:29	比較しました。なのかなと私は思ったんです。でもそういうわけじゃなくて全部とにかく比較してるって話だったら、それはそれでわかるような形で、
1:07:38	まずはしていただきたいのと、あと少しお話ありましたけど
1:07:43	そもそも比較してないものも、
1:07:45	あるわけで、
1:07:47	これ何ページでしたっけ、例えば 53 ページとか、
1:07:52	これ、何か比較はしてないんだけどもういきなりこれ代表ケースにするみたいな話になって、じゃ、その代表ケースって何ですかって、やっぱりわからないですよ。
1:08:02	だから、それで私、さっき確認させていただきたい、いただいたのは、
1:08:08	検討用地震ごとに、何か幾つかやっぱりこう傾向とかパターンみたいなのがあって特徴があって、そういう特徴ごとにまず分けた上でやってるのかな。
1:08:19	と私は少なくとも理解してたんで、もしそうじゃなくって、いや全部比較してるんですよって話だと、53 ページもこれ、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:27	他のものと、全部比較した上で、
1:08:30	これ代表ケースとする。
1:08:33	ていう理解で。
1:08:35	よろしいですかね以上。
1:08:39	はい。北海道電力の高橋でございます。53 ページですねそちらにつきましては1本だけの応答スペクトル図となっておりますけれども、
1:08:50	その他ケース、エスワンを超えるものとそれぞれ比較した結果、濃いこの青いものに関しては、
1:09:00	他で代表できないというような、形になってますので一派だけでお示しさせていただいているという形になってございます。
1:09:11	なので
1:09:12	そうですねちょっと記載の方も少し工夫しながら資料の方、訂正していきたい、修正していきたいということで考えてございます。
1:09:21	はい。規制庁佐口ですけど、御説明についてはわかりましたけれども、そうすると、じゃあ何でこれは代表できるものが他にあるのか、これは代表できるものが他になさそうかというのが、どういう基準で、
1:09:38	結局、判断されて、今53ページみたいなこういう単体のものが出てくるのかっていうのも当然、
1:09:44	今資料上はわからないのでそうだからそういうところも含めて、やっぱりその、
1:09:49	やっぱり一番わかりやすいのはフローですよ。最初に、その選定に至るまでのそのフローをどういう手順で、どういう基準でこうやっていくかみたいな、そういうのがあるとやっぱり、
1:10:02	わかりやすいんですけど、少なくとも今はそういうことがないので、そうすると、
1:10:06	本当に今の示されているのがいいのか悪いのかっていうのを我々判断できないので、そこはですねやっぱりお願いというよりもむしろそういうのはつけていただかないと、多分これ開放できないと思ってますので、そこはよろしくお願いします。
1:10:25	北海道電力野尻ですわかりましたこの資料上、何ていうんでしょうね、単体として選んでいるもの代表ケースとして選んでるものについては、
1:10:35	何だろうほか、
1:10:37	代表できないっていうものを全部載せるわけにもいかないと思ってこう。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:41	アップした結果を載せてますんで、それ考え方については載せさせていただきますって他のケースも基本的に、
1:10:48	何だろう、代表これで代表これを代表とするという資料にはしてますけど代表させないものって言うんですかね、排除するもの、除外するものを、
1:10:59	これで代表できるんで除外しますというのが資料の作りだと思ってたんで、ちょっとそこの御書きぶりとか、あと入口に関してはおっしゃるところは理解しましたので可能な限り、
1:11:10	書きたいと思います。只野サグチさんおっしゃるところで言われて、ちょっと定量的にっていうところが非常にこれ、
1:11:16	難しいところだと。
1:11:18	もうずっと作業してる中でも思ってますんでちょっとどこまで書けるかわからないですけど整理をしたいと思います。以上です。
1:11:25	はい規制庁佐口です。別に私定量的にこだわってるわけじゃなくって、御社の考えがどうなのかというところを、確認をさせていただいて、しかもそれがわかりやすい形で示していただければと。
1:11:38	思いますので、先ほどのご説明で、
1:11:42	要はある周期体。
1:11:45	の地震動レベルっていう話だったらちゃんとバンドブランドのその幅で見たときに、
1:11:52	トータルとしてこっちの方が大きくなってるのでしょってそれは見ただけで、わざわざその数値まで出さなくても当然わかるものも当然あるわけですし、逆に言うと、そういうわからないものだったら、
1:12:03	これ同程度っていうそういう判断の仕方もあると思うんですけど、あくまでも御社はもう、この周期体ではこっちのが大きくなってると言い切っているんで、もし言い切れる。
1:12:15	ものであれば当然、ぱっと見、
1:12:17	言い切れるっていうのであればわかりますけど、そうじゃなければ、同程度という表現を使うのも当然ありだと思います。当然、同程度であれば他のところで何かこう差別化ができて、
1:12:31	こういうんここちらに代表できるんですとか、そういう説明があればわかるんですけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:36	何か明らかに、地震動レベルが大きいです。で、党派計のその特徴っていうのは同様の傾向ですっていうすごくですねアバウトで、それを見たときに、
1:12:47	本当にこれどうやって入れるいえるのかなとかっていう、いうところがやっぱりわからないと。
1:12:54	いうところで、そこはやっぱり明確に、
1:12:58	こうだから、こっちで代表できるんですっていうのが、
1:13:01	誰が見てもって言ったらあれなんですけどちゃんとわかるように、御社の考えはきちんと書いていただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。
1:13:10	はい。北海道電力野尻です。小路いたします。今回の資料でいうと基本的には同程度という優位性がある側を選んでいる白黒つけるものを選んでいづもりでございます逆に、同じような傾向で選びきれないものであれば
1:13:27	選んでる、代表ケースにするっていう思想でやってるつもりです。ありますので、そこら辺、それぞれ判断した義務を、
1:13:35	もうちょっと個別具体的にしっかり整理して、整理やりたいと思います。
1:13:41	それとあと、一つ佐口さん途中で言われてた、
1:13:45	この
1:13:46	2と言いながら逆転してるところあるよねというのは当然我々も承知してわかっていながら、書いてると、それは先ほど言ったようにS s 1を超えてるところでも逆転していてもそれでも、
1:13:59	その中で判断をしてるといふ考え方になってますんでそこはちょっともう一度わかるように、
1:14:06	させていただきたいとあくまでも全包括してるものを大きいと言ってるわけではないという中で整理させていただいてますんでそこはわかるようにします。以上です。
1:14:21	規制庁谷です。
1:14:24	えっとですねさっきの話のやりとりで気になったんですけども、
1:14:29	多分ここ。うん。こういうものを説明します。ていうのが、野尻さんおっしゃるように、
1:14:37	何かいろいろ比較した結果、オミットできそうなのがこれがあったのでそれをこう載せましたっていう理屈だったら別にそれを理屈は変える必

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	要ないので、その前段をちゃんと説明してくださいっていうのがこちらの趣旨かと思っておりますのでお願いします。
1:14:53	あとその堂々傾向って無理やり言う必要もなくって、
1:14:59	傾向はこういうところが違うんだけれどもだけでも、こっちに代表できるんだっていうのがわかれば、我々はそれはその辺の理屈をこう判断していくと。
1:15:10	でも、その手前で同傾向じゃないじゃんっていうのがあればもうそこで、
1:15:16	そういう話おかしいですねっていう話、考えにもなりますので、ちょっと
1:15:23	しっかりとですね同傾向というのはどういうものなのかとかいうのを考えていただけたらというのが、先ほどの佐口さんの趣旨かと思っておりますのでお願いします。
1:15:34	あとはね、ちょっと見てて思ったんですけどそう言うところあるのかなのかかわからないんですけど、例えばこの、
1:15:42	尻別川だとか f s 中だとか、なんかこの最初にね、代表する地震動っていうのは、1 ケースじゃなくって何か複数人結果複数になってるんですけど、
1:15:54	複数に選ばうとか、そういう発想は特になかったんです。
1:16:00	1 ケース、結果としては複数あって、複数あれば、ある種期待はこっち側にとかいうのが結構、複数あるというのは大事なことかなと僕は、
1:16:12	個人的には思ってるんですけども、その選定の講師層の中に、今、
1:16:18	1 ケースで代表できるんだったらもう 1 ケースでいくんだよ。そう、そういう考え方でやってるのか、或いは、最初からできるだけ複数を選びましょうとかいうのがあるのかと。
1:16:28	いうのをちょっと考えを確認させてください。
1:16:33	北海道電力野尻です。基本的には 1%でも完全に優位に他のケースを包絡して、系統でも優位性があるのであれば 1%でもいいのかなという考えだと思ってます。ただ今回でいうとやはり断層モデルはってそういうわけにはいかないものなんで複数は、
1:16:49	ある意味結果的ではありますけどそうなるだろうと思って選んでます。以上です。
1:16:54	はいわかりました。
1:17:00	なんか富士副セイダン選んでますっていう方が何か。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:07	我々としては御説明説明性があるかなと思ったんですけどそんなことはないってことなんですね。
1:17:12	思いました。
1:17:23	いいすかねなんか
1:17:38	後ちょっとじゃあ次のお話に行きたいと思うんですけど※二つ目のコメントの、
1:17:45	一関東の鉛直、2分の3、3分の2か3分の2っていう話は、
1:17:53	資料どこ、88 ページですか。
1:17:58	これもあれですよね前回からコメントを踏まえて、
1:18:02	加えたところっていうのは野田Rの2002、
1:18:08	ていうのを加えたっていうことでいいんですか。
1:18:13	はい。北海道電力高橋でございます。おっしゃられる通りでございます。前回来、会合でのコメントを踏まえまして、三分の2、いいですねそちらー。
1:18:25	を参考にしたものの根拠として野田とある2002というものを参考に使っているということで記載の方を追記してございます。以上でございます。
1:18:39	井谷です私もあの会合で細かくこういったことを言ったっていうのははっきり覚えているわけじゃないんですけども、
1:18:46	北海道電力としての根拠。
1:18:48	ていう部分。
1:18:50	と、これでまあいいんだっていうふうな、その考え方が、
1:18:54	あるべきなんだと、いう気持ちで言ってるんですけども、そこが言葉不足だったのかもしれないんですけども。
1:19:03	この野田でいいんだっていう部分っていうのは何かこう、
1:19:10	ちょっと、
1:19:12	申し訳ないですけど、能田野田の3分の2っていうのはわかっているのはわかっているんですよ。
1:19:17	北海道力としてもこういう意向だか、こういう。
1:19:21	ことを考えて野田でいいんだ。
1:19:24	野田の3分の2をもっと言っとけばいいんだって、そこが何か大事だったと思うんですけども。
1:19:30	例えば何か
1:19:32	これ、ほ、この三分の2っていうのは、すべての地震で

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:38	適用できるわけじゃないけれども、この岩手宮城っていうのは、こういう地震だから三部の日程のでもいいんだとか、何か、
1:19:46	北海道電力としての考えっていうのはここにはもういないんですか。
1:20:03	北海道電力ノジリです
1:20:06	水平と鉛直の比率って基本的には各観測点に依存するその地盤状況に依存するところはあるのではっきり、
1:20:13	言えないというところで特に一関東については鉛直方向については、うまく剥ぎ取れないってのは地盤物性が求められないっていうところにある意味イコールになっているという中でどう設定するかという時に、
1:20:27	野田を引っ張ってますけどもドアであり、世の中一般的な水平力の比率っていうものを用いることで、鉛直方向の地震動としては、
1:20:37	適切っていう言い方がいいのかわからないですけど、一般的な鉛直方向の地震動が評価できるであろうということで整理したものになります逆にあまり、
1:20:49	この地点のというこのエリアのというか岩手宮城のっていうようなところでの整理はしない方向で、今回は、
1:20:57	考えているものになります。
1:21:03	井谷です。何か端的に言うとう岩手宮城地震っていうのが三分の2、
1:21:13	5適用、
1:21:15	三分の2適用っていう言い方あれですけど、こういうことで考えても問題ないんだっていうのは例えば他の観測点での公費だとか、とか、
1:21:25	そういった何か特殊な地震でもないんですとか、
1:21:30	そういう北海道電力の考えがあるのかなっていうふうに思ってたんですけど。
1:21:36	それもないんですか。
1:21:41	北海道電力の杉です
1:21:43	ないんですかと言われるとないことはないんですけど、
1:21:46	岩手宮議員の各観測点我々が今検討で使っているところについて、いわゆる耐専の、地盤物性各地点の地盤物性を使ってN o d aで評価すれば大体3分の2より小さくなるなっていうところは、
1:22:02	見てはいます。ただこれちょっと、そういうのを出していくのがいいのか、一般的な評価でいいのかっていうところで我々としては一般的な、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:11	比率を使うっていうちょっとわかってないところに関して適用するんでそういうものを使っているということになります。
1:22:25	はいはい。
1:22:26	何か例えばですよ 89 ページとかはこれ、何でついているのかとか、S s 1 と比較すると、
1:22:35	こんななりますよって。
1:22:39	これこれただつけただけなんですかね、そこに関して真ん中三分の 2 っていうのがあんまりおかしなもんじゃないんだよとか、そういう意図はないってことなんですか。
1:22:53	意図は、
1:22:55	北海道電力野尻ですそこについては特に、
1:22:59	意図があるというよりは結果として設定して一関の評価用地震動というのが、こういうレベル感ですというのを示しているというつもりでした。以上です。
1:23:25	谷です。
1:23:27	まだこれ会合何かこれが妥当なのかとかいう話もそんな
1:23:37	何て言うんですかね、そんな続けるような話でもないのかなと思うんですけど今一度ちょっとこの辺の
1:23:45	前回の会合で私の趣旨が伝わってなかったらその辺、
1:23:52	も含めてコメントしたつもりですっていうのをですね踏まえて、もう 1 回ちょっとこの辺説明してもらった方がいいかなというふうに思いました。
1:24:01	今のところのお考えっていうのは確認できましたので、
1:24:06	はい。
1:24:51	規制庁単位ですけど、ざっと確認はできたかなというか、ちょっと、
1:24:58	もう少し強い説明加えないとわかりにくいなというところもあったと思うんですけども、そこっこのこの、
1:25:07	規制庁が、
1:25:08	9 階にいる人からは以上なんですけどスズキさんとかありますか。
1:25:16	いえ、私はここで個別には特にはないです。大丈夫です。
1:25:20	はい。
1:25:31	それではですねの確認は以上にしたいんですけど北海道電力から何かありますか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:43	特にありませんすみません最後のさんおっしゃられた一関東に関しては今、
1:25:49	先ほどのやりとりであった通りこれで、北海道電力としての考えとして、こういう三分の2でいいんだというところの考え方をもう少し明確に書くということで理解しましたのでちょっと可能な範囲で対応したいと思います。その他について
1:26:07	いただいたコメントをですね一つ一つもう一度見直して大きな考え方を示した上で一つ一つ見直すということになるかと思えますんで対応させていただきたいと思えます。以上です。
1:26:21	規制庁谷です。
1:26:23	あとはねこれやっぱり介護私の方としてはできるだけ早くかけたいなっていう気持ちはあるんですけども、
1:26:32	資料、
1:26:35	大分時間かかりそうですかね、今の。
1:26:38	話は、
1:26:42	そうですね今日今いただいたコメントでちょっとあれです特に新たに1回当然解析をすとかっていう話ではないものの、
1:26:51	考え方を整理するというのと一つ一つもう一度書き直しに行かなきゃならないのでそれなりに時間は欲しいかなと思ってますが、
1:27:01	このどれぐらいの猶予ってありますか。
1:27:03	ねえ。それはできれば来週流石無理ですけど、再来週だとかってというのが、
1:27:10	希望としては、そこに入れたいなっていうのもあるんですね。調整次第ですけど。
1:27:21	ただ、ただ先ほど言いましたようにその辺の入口の部分がちゃんと話が、共通、共通のどう、どうやってるのかっていうのが、
1:27:32	わからないとやっぱりこれ会合でも、そこがわかりません。以上っていうような会合になるのかなと思うので、
1:27:39	ちょっとそこはしっかり伝わるように作っていただきたいと思っています。
1:27:46	はい。北海道電力野尻ですスケジュール感のイメージは、
1:27:53	集合って考えると
1:27:56	それほど余裕が我々の作業時間としてはないんですが、
1:28:02	ちょっと検討はさせていただきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:10	ちょっと
1:28:12	どれぐらいかかりそうかというのを改めてちょっと事務的に連絡いただけたらと思います。
1:28:20	はい北海道電力ノジリですまた東京支社経由で、うん。
1:28:24	ご連絡させていただきます。はい、お願いします。他ないですか。
1:28:32	北海道電力からは特にありません。
1:28:37	そうだ。それと多分、
1:28:40	来週面談があるんですかね工程の、
1:28:44	そういった場でも話ができすべきできるだけだったらしていただけたらと思います。
1:28:50	はいそうですね来週 12 日の日に、スケジュールの面談がセットされていると思いますのでそこで
1:29:00	ご報告できるかその前にご報告できるかいずれにしても我々の方で整理してお伝えしたいと思います少なくとも 12 の日には、何らか答えれるようにしておきます。
1:29:11	井谷です。よろしくお願いします。
1:29:14	特に他なければ、これでヒアリング終わりたいと思いますけどよろしいですか。
1:29:21	はい。それではヒアリングを終わります。どうもお疲れ様でした。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。